

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第1334号 (2023. 9. 10-2023. 9. 17)

- ◆ 参加者：比島アルト、藤井皐、雷(らじ)、西沢葉火、水の眠り、石原(こぎ)しまね(くん)、岡村知昭温(あき)、佐竹紫円、syusyu、西脇祥貴、石川聡、おかもとかも、元さん、ダリア(ひ)、しろとも、涼、汐田大輝、うつわ、海馬、古城、風ちひろ、透影弦、やは、池田突波、まき(まき)生、蔭一郎、太代祐一、蜜、萩原アオイ、dankey、何となく短歌、Take、東(ころ)、まつり(へきん)、白石(こ)ピー、(ま)、涼閑、輪井ゆう、山田小太郎、鴨川ねぎ、りゆうせん、修平、上崎、ひうま、燕雀之心、山田真佐明、みや、萬葉、片羽(あ)、雲雀、さー、syusyu、宮坂愛哲、とるは(どーる)、梓川葉、いずみ、月硝子、赤端独楽寅、キミと白、詩書え、月波与生(六二名)

◆ 7・7、5・7・5 (川柳・俳句)

推し変はやめてあなたにかぶりつく 東(ころ)
コスモスと気絶している風がある 蔭一郎
翻る2世代に押すいいね 太代祐一
街へ出て肌色以外を見て帰る おかもとかも
月曜の砂しか吐けぬトースター いずみ
投げ銭の代わりにおこげ栗ごはん さー
達筆にタンパク質とダンボール 蔭一郎
振り返ったままの蜥蜴で死んでいる 雷
ほんもののひのえうまにあわせるから 西脇祥貴
うっすらと金木犀の哲学史 上崎
友殴り我殴り木は動かない 修平
早急に秋を澄ませていた機械 蔭一郎
合鍵が無ければ梨の実でも駄目 しまね(くん)

滑り台滑る白装束の列 蔭一郎

吸い付いて良いかあられもなく葡萄 しろとも

おちよぼ口しないと読めない秘伝の書 おかもとも

亀の街だから亀しか食べられぬ 岡村知昭

蟻塚にいにしえの春 眺めたい やは

干してなほ烏賊に分別残りけり しまねこくん

カシオペア自分本位のSEXする ダリア 220

むりすじの村へ葦の種が降る 西脇祥貴

ピーマンの赤裸々すぎる写真集 しまねこくん

飴売りは知らないアザラシの無事を 岡村知昭

メルカリをうつすら無視する栃 藤井皐

双曲線ファウルボールは二軸へ 鴨川ねぎ

似てないと思った娘婿だった 雷

朝顔とゆびきりをした 西沢葉火

迷ったら鶏頭燃ゆる方へ行く 佐竹紫円

倒されてゑのころ草の未遂かな SYUSYU

秋の夜虫達の声心地いい 涼

暗闇を見たくてドアの鍵壊す 汐田大輝

心臓が青りんごより弾むので 海馬

後は僕に任せてください唐辛子 池田突波

ピーマンに羊の脳を詰める意味 M&S&H

胸を張り鴉が街を闊歩する 太代祐一

このままですごく涼しいこれでもいい donkey

戸籍では確かエヌエーオーエイチ まつりぺきん

去りぎわのあなたの表情の青葡萄 石川聡

親指に丸い血痛痛針睨む 蜜

寂しげな後ろ姿を照らす月 涼閑

月照らすまつさらな手紙積む部屋 輪井ゆう

心の移ろい察した時に鳴いた鳥の名 山田小太郎

沈黙の代償として首が無い りゅうせん

Y路地で妄想仮面すっぴんに うつわ

秋晴れをもやもやしたる通信欄 ひうま

ウオンバットのタスマニアは冬の装い 燕雀之心

山に霰叩きて起きる 山田真佐明

とこしえに沈まぬ乳房カシオペア 片羽雲雀

喜んで生き喜んで死ぬがいい 宮坂変哲

きれぎれに法師を呼ばう秋の蟬 月硝子

未使用の陶器に罅入れる夜長 赤端独楽男

砂時計から作る自分だけの砂漠 月波与生

◆ 5・7・5・7・7 (短歌)

息吸って吐くのも面倒くさくってグラスのように砕けたく
って 何となく短歌

今日飲んだ水の量より少しだけ多いくらいが目から出てい

く 萩原アオイ

ネツシーは排卵は事後報告はあつけないビール 石原と
つき

路端の片隅にある一輪の花だけ放つ恋慕の匂い 比島アル

ト

まばたきをしない魚の目は澄みて 身も蓋もない水槽を蹴

る 水の眠り

作り笑み鏡よ鏡見透かされ魔法が解ける夜の憂鬱 元さん

冷蔵庫に貼られたままの時刻表 っ 並んであの頃縫(よ)れ

る 古城

なんだかね急に悲しくなっちゃって急にさみしくなっちゃ

って秋 風ちひろ

憧れた街の埃で咳き込んで土の匂いに安堵する夜 透影
弦

振り上げた拳の上手い下ろし方今月三台テレビを壊す

Take

一房の一粒ごとに荒漠のけものを孕むこれは葡萄 白石ポ
ピー

もう何が刺さっていたのかわからない大切の変容 断捨離
は続く saku

ほろびゆく海をみていた足元につめたい波がささやいてゆ
く みや

母もまた祖母と同じく特養へ僕も辿るは先ず同じ道か 萬
某

両の手がシーツの波を泳ぐ時つま先曲げて合図を告げて
とるぼどーる

十年も騙され続けるそのひとはほんとはぜんぶ知ってるの
かも 梓川葉

◆詩

雨ふれと

願ってみても

叶わない

雫一粒くれないか？

渴いた心にくれないか？

(温(三))

◆作品評から

このままですごく涼しいけれど donkey

〜秋風の心地良さが伝わってきます。すっかり過(し)や

すいでしようね。大阪の宴に向けて体調管理してくださいね。楽しいレポート待ってます（水の眠り）

去りぎわのあなたの表情の青葡萄 石川聡

く俳人・秋尾敏に「急ぐなよ葡萄は一粒ずつ青い」

という句があります。葡萄でこれよりすごい句、あるかな。

上五の「急ぐなよ」は、加藤楸邨の「木の葉ふりやまずいそぐないそぐなよ」から持ってきてるんですよ。

秋尾敏のこの句、わたしにとつて衝撃的過ぎて、解釈も鑑賞もなにも出てきません。（蔭一郎）

うつすらと金木犀の哲学史 上崎

く何故かわからないけど、金木犀の香りと哲学史とのペーリングが凄くしつくりきます。（石川聡）

熱波師にサブリミナルな本能寺 りゆうせん

く熱波師って凄いインパクトの造語だなんて思ったけど、まてよと、念のため調べたらドイツ系サウナの専門用語だった！！レジエンドな熱波師に、鮭鱸（すずき）、箸休めサトシ、五塔熱子などの方々がいて名前もインパクトが強すぎだった www サウナ界すごいな！ （石川聡）

く「熱波師」も「サブリミナル」も「本能寺」も面白い言葉だけ繋げると何故かそれほど面白くない。言葉のインフレ。こういう時は各言葉で3句書く。（月波与生）

鼻息の音して地球温暖化 修平

く今夏は地球温暖化が原因で猛暑日が続いて…と言われるても今更どうにもならない。温暖化も最初は「鼻息の音」程度の些細なことだったのだ。（月波与生）

友殴り我殴り木は動かない 修平

〜自分のように大切な友達を善意とはいえ殴ってしまつたことで、自分のことも心理的に殴ってしまふ結末になつたが、自分という本筋(フライド)は、友の本筋も以前のまま全く変われない

↓それが悲しいのか、嬉しいのかよく自分でも分からない勝手にそんな、気持ちにさせてもらいました(キミと白)

案山子にもヤクルト置いて行きますね しまねこくん

〜外出先から戻ると机の上に(ヤクルトレディからの)

「お疲れ様です」のメモとヤクルトが置かれていたのを思い出す。(月波与生)

憎しみも引力だろう青林檎 馬勝

〜迫力のある句で魅かれた。青林檎の着地も力の落とす具合がいい。(月波与生)

迷つたら鶏頭燃ゆる方へ行く 佐竹紫円

〜よく「迷つたら〇〇の方へ進め」と言われていますが、

「鶏頭の燃ゆる方へ行け」とは、どういうことでしょうか？
参考のために教えてください(詩書え)